

令和6年度 西が岡小学校 学校評価計画書

1 教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重の教育を基盤に自ら学び、自ら考え、主体的に判断して生きていくことのできる、心身ともに健康で、心豊かな、たくましい児童を育成する。

＜目指す児童像＞

- (1) 明るく元気な子ども（体力・気力）
- (2) よく考えて学習する子ども（創造力）
- (3) 心豊かで思いやりのある子ども（責任・思いやり）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

教育目標の達成を目指し、子どもの主体性を育て、希望に満ちた明るく楽しい学校づくりをするために、全職員が和と協力、熱意、そして人間尊重の精神を基盤に『生きる力』を育む教育に取組み、新しい時代の教育に向けた持続可能な活力に満ちた特色ある学校経営を推進する。

＜目指す学校像＞

- (1) 楽しく充実したみんなと生きる学校
- (2) 子どもと教師が共に育つ学校
- (3) 地域とともに歩む笑顔あふれる学校

＜合言葉＞ 元気いっぱい 夢いっぱい 笑顔あふれる 西が岡

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 安全安心な学校づくり

「生きる力」を育み、児童が生き生きと活動し安全に学べるようにするために、日常の安全管理に努め、児童の安全確保に努めるとともに、全ての児童が安心して生活を送ることができるよう、いじめ等の未然防止や安全教育の充実に努める。

(2) 自己肯定感を育む学級経営と教育活動の充実

一人一人の存在を互いに認め合い、学習や生活の基盤として居心地がよく安心感ある学級づくりに努めるとともに、自信と意欲を育み、よさを十分に発揮できる教育活動の展開に努める。

(3) 確かな学力の向上

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図り、個別最適な学びや協同的な学びを推進し、学ぶことの楽しさや成就感を体感させ、基礎・基本の確実な定着と自ら学ぶ態度の育成に努める。

(4) 豊かな心の育成

道徳教育や体験活動、読書活動等を通して「生命や人権を大切にする心」「思いやりの心」や創造性を育み、心豊かでたくましい子どもの育成に努める。

(5) 児童指導の充実

児童理解に努め、信頼関係を構築し、全職員で方針を共有して行動力や判断力を育成するとともに、保護者との連携を図り、規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立に努める。

(6) 体力の向上と保健安全教育・食育の充実

進んで運動に親しむ体育指導と、健やかな体を育む食育・保健指導の充実を図り、健康・体力の向上に努める。

(7) 小中一貫教育の推進

学校園として認め励ます指導を通して自尊感情を育み、学習や活動の交流を図り、小中一貫教育を推進する。

(8) 特別支援教育の充実

多様性と人権を尊重し、特別支援教育の視点を大切にした教育環境の醸成に努める。

(9) 教職員の資質の向上

人権尊重の理念を重視した教育活動を実施し、教育的愛情を持って児童に接するとともに個々の教員が資質向上に努め学び合いを高めて、児童や保護者から信頼される教職員集団を目指す。

(10) 地域とともにある学校づくり

家庭や地域と連携し地域の教育力を生かした学校教育の充実を図り、情報発信の充実に努め、連携・協働した取組を推進する。

(11) 働き方改革の推進

働き方の見直しを図り、心身ともに健康に専門性を発揮して効果的な教育活動に専念するための業務の適正化を図り、新しい時代へ向けた持続可能な教育体制を目指す。

【宝木地域学校園教育ビジョン】 「いきいき宝木」心豊かな宝木っ子の育成を目指します
～他を思いやる心や規範意識を育み、基本的生活習慣や主体的に学ぶ態度を身に付けさせる指導の充実～

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法、同施行規則、小学校学習指導要領等の法令並びに栃木県教育委員会の方針「栃木県教育振興基本計画 2025」、宇都宮市教育委員会の学校教育の重点「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」、「令和6年度指導の重点」等の諸計画が示すところに従い公教育の立場を堅持し、本校の教育目標達成のため、調和と統一ある教育課程を編成する。
- (2) 児童の実態や学校の特色や地域のもつ豊かな教育力を生かして、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで「生きる力」を身に付けた児童の育成を目指した教育課程の編成に努める。
- (3) 本年度の学校教育目標、学校経営方針、努力点や具体策、学校課題の具現化を図るとともに、学校教育の活性化を図る特色ある教育課程の編成をする。
- (4) 各教科、特別な教科道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動のほか、・学習の基盤となる資質・能力や、現代的な諸課題に対応していくための資質・能力を育成していくことができるよう、各教科の特質を生かしつつ各教科間で学習内容を関連付けるなどの教科等横断的な視点で教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
 - 落ち着いた学校生活のもと認め励ます教育を推進し、縦割り班活動を中心とした体験活動、読書活動などを通して豊かな心と主体性を育む。
- (2) 学習指導
 - 児童の実態や特性を踏まえ、主体的に学ぶ態度や学習習慣の育成を図るとともに、基礎・基本の確実な習得を目指した分かる授業（宇都宮モデル・西が岡スタイル）を展開し、確かな学力の定着に努める。
 - ・ 個別最適な学びと協働的な学びの実現を意識し、ICT環境の活用や特別支援教育の視点を取り入れた授業の充実を図り、学ぶことの楽しさを実感する教育の推進に努める。
- (3) 児童生徒指導
 - 道徳教育や学級経営の充実を図り、他者と協同してよりよく生きようとする児童を育てる。
 - 具体的な活動を通して「明るいあいさつ」「正しい言葉遣い」「決まりを守る態度」の育成に努める。
- (4) 健康（保健安全・食育）・体力
 - 体育、保健、食育指導の連携をもとに、自己の生活習慣（保健安全・食習慣・体力）を意識し行動する児童の育成に努める。
- (5) 働き方改革の推進
 - ICTの活用、校内協働体制の確立、地域と学校の連携・協働の積極的な推進等により教育の効率化を図るとともに、教職員の出退勤時刻の管理を通じた勤務時間の適正化を推進する。

6 自己評価

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」における肯定的回答⇒児童90%以上	① 児童が自分の考えを広めたり深めたりするような学習場面で1人1台端末を活用し、主体的に必要な情報を活用して学習に取り組めるようにする。 ② 「聞き方・話し方・姿勢」を掲示し、意識付けを図る。 ③ 「家庭学習のすすめ」を自主学习ノートに貼り、それを見ながらどんな内容にするかを自分で決めて、進んで学習できるようにする。 ④ 「西が岡スタイル」による「分かる、できる」を実感できる授業の展開に努める。 ⑤ 学校図書館や市立図書館の「巡回図書」、1人1台端末を活用し、児童の情報活用能力の育成を図る。		
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」の肯定的な回答⇒教職員85%以上	① 体験活動と関連を図った道徳科、探究活動の過程に体験活動を位置づけた総合的な学習の時間の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や思いやる心などを涵養する。 ② ボランティアによる読み聞かせや読書週間を計画的に実施し、豊かな感性の育成を目指した読書活動を推進する。 ③ 異学年の交流活動を上級生がリーダーになって主体的に行い、思いやりの心を育てる。 ④ 「命の授業」や「人権の授業」を授業参観等で公開したり、親子学習で取り上げたりして、保護者への啓発を行う。 ⑤ 人権週間に標語や作文を書いたり、人権について考える集会活動を実施したりすることで人権意識を高めていく。		
	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答⇒児童80%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 様々な授業において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ③ 道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、そうした実践に向けた意欲を高める。 ④ キャリアパスポートや振り返りカードを活用して、振り返りを行い、各種行事における達成感を味わえるようにする。		

1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 休み時間の遊び方や廊下の歩行、登下校時の歩行について、自分で考えて安全に行動できるよう日常的な安全指導に努める。 ② 生活チェックシートを活用して、担任や養護教諭、栄養士等による個別指導を充実する。 ③ 「おべんとうの日」には、栄養のバランスを配慮した献立が立てられるように、発達段階に応じて、ワークシート等を活用して支援する。 ④ 委員会活動を通して、上級生を中心に児童が自ら健康や安全について考える場を設定し、学校全体で生活場面に実践する機会を設ける。	
1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上	① 宮・未来キャリア教育に関わる活動を生活科、総合的な学習の時間等の年計へ位置づけし、系統的に学習する。 ② 実践的な活動を通して自分の役割を意識し、問題を主体的に解決し、生活をよりよくしようとする意識を高める。 ③ 地域人材やボランティアを活用し、仕事や職業観についての話を聞く機会や体験的活動を設定して、学習や生活と職業とを関連付ける。 ・ 2分の1成人式（4年） ・ 夢いっぱい教室（6年） ・ 町探検（2年） ④ 学級活動や委員会活動で、キャリアパスポートへの活動記録を累積させ、自己の成長を自覚させる。	
2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上	① 低学年から、学級担任とALTによるTTによる指導を進め、「聞くこと」、「話すこと」を中心とした活動を通じて外国語に慣れ親しみ外国語学習への動機付けを高めるとともに、高学年においては段階的に文字を「読むこと」、「書くこと」を加えて総合的・系統的に行い、コミュニケーション能力の育成を図る。 ② 職員研修で英語の教材開発やICTを活用した指導法の工夫や改善などを行い、授業力の向上を図る。	
	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上	① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ② 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう自己研修に努める。	

2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器や 図書等を学習に活用して いる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、パソコンや図書等を学 習に活用している。」における 肯定的回答 ⇒児童 85%以上	① 「一斉学習」、「個別学習」、「協働学 習」それぞれの学習場面において、デ ジタル機器を活用した効果的な学習 指導に努める。 ② 児童が授業においてデジタル機器 や図書資料を活用して、情報を収集・ 整理・発信する活動を充実させ、それ らを活用する能力の育成を図る。 ③ 家庭学習においてタブレット端末 の活用を図る。 ④ 学校図書館の環境整備に努め、授業 学習内容に関連する図書資料を計画 的に準備し、国語の教材や総合的な学 習の時間の調べ学習等に役立てる。 ⑤ 朝の学習において読書の時間や読 み聞かせなどの読書活動を計画的に 位置づけたり、図書だよりをの発行し たりなどを通して児童の読書意欲を 喚起する。	
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社 会」について、関心をもっ ている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、「持続可能な社会」に ついて、関心をもっている。」に おける肯定的回答 ⇒教職員 75%以上	① 各教科・総合的な学習の時間等にお ける環境に関連する学習内容を通し て、児童の発達段階に応じた教材分析 や授業づくりを行い、持続可能な社会 づくりの実現に向けて、児童の見方・ 考え方を育成する。 ② 各教科で学習した取組を「SDG' S17 の目標」に関連付けながら実践できる 機会を学級活動や委員会活動等で意 図的に設ける。	
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A10 教職員は、特別な支援を 必要とする児童の実態に 応じて、適切な支援をして いる。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要 とする児童生徒の実態に応じ て、適切な支援をしている。」に おける肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 校内支援会議を計画的、または必要 に応じて開き、個に応じた具体的な支 援について協議し、共有して組織的な 体制で対応する。 ② 全教職員が様々な視点から児童を 観察し、特別支援教育コーディネー ターを中心に支援の必要な児童につ いて状況の把握・情報の共有を行い、か がやきルーム担当者と連携しながら 学級での支援を充実させる。 ③ SCや他の外部機関と連携し合っ て、個に応じたよりよい支援の在り方 について考え、指導に生かしていく。	
3- (2) いじめ・不登 校対策の充 実	A11 教職員は、いじめが許さ れない行為であることを 指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されな いことを熱心に指導してくれ る。」における肯定的回答 ⇒児童 90%以上	① 教育相談を年間2回実施し、児童の 実態の把握と問題行動の早期発見に 努める。 ② 人権週間、いじめゼロ月間、いじめ ゼロ集会を実施するとともに、保護者 にも公開し啓発に努める。 ③ いじめ防止に関する資料や学校で の取組を懇談会や学校便り、学校HP などで地域や保護者に積極的に発信 する。	

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」における肯定的回答 ⇒児童90%以上	① 児童の自己肯定感や安心感が高められるようソーシャルスキルやエンカウンター等の取り入れ、教師の言葉がけや雰囲気作りに努める。 ② 職員会議後に不登校対策やいじめ対策を兼ねて、児童指導について情報交換会を実施し、全職員が情報を共有する。 ③ 電話連絡や訪問等で家庭との情報交換を密に行い、SCを活用する等の積極的な支援と児童一人一人の状況に応じた適切な働きかけを行う。 ④ Q-U検査結果や教育相談等で実態を把握し、不登校未然防止に努めるとともに、不登校の発生時にはSCMや児童指導主任を中心とした対策委員会を実施し、方針を共有し、全校体制で支援を行う。	
3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」における肯定的回答 ⇒児童90%以上	① 学校行事や児童会活動に児童が主体的に取り組む場を設定し、適切な指導・支援・助言をすることにより、児童の達成感・自己肯定感を高める。 ② ペア学習やグループ学習などの多様な学習形態を取り入れたり、体験的活動の場を設定したりして、児童の意欲を高める。 ③ 年間4回実施するいじめ調査を効果的に利用し、必要に応じて児童と面談を行い、継続的に児童の実態の把握と問題の早期発見に努める。	
3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化			
4-(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」における肯定的回答 ⇒児童90%以上	① 全職員共通理解のもと今年度の学校課題の研究を進める。 ② 授業研究を行い、指導方法の工夫・改善や指導力の向上を図り、きめ細かな指導を実施する。 ・西が岡スタイルの実践 ・一人一授業公開 ・授業改善チェックリストの活用 ・ヒントカードや教材提示の工夫 ③ 具体的な学習の取組の状況や研究の様子、要請訪問などについて、学びの広場で取り上げ、学校での研究の様子を保護者に知ってもらう機会にする。 ・「学習チャレンジ週間」の実施 ・「学びの広場」の発信 ・西が岡小「家庭学習のすすめ」の配付 ④ ノートやワークテスト、プリントなどに励ましやアドバイス・コメントなどを入れ一人一人の意欲を高める。	

4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒教職員80%以上	① 学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等について、教職員の負担軽減が図れるよう協力して取り組む体制づくりを進める。また、困難さを感じる業務について気軽に相談し、助け合える雰囲気大切にしよう。 ② 全職員が職員会議や学年会での児童の情報交換を密にし、共通理解を図る。 ③ 朝の学習や給食指導の際には、担任以外も学級支援に関わる。	
4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒教職員80%以上	① 職員研修等において働き方改革の意識付けと具体的な取組の共通理解を図り、教職員一人一人が、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ② ポータルサイトや学習情報システム等を活用して、業務を効率的に遂行できるようにする。 ③ 職員会議等の協議事項を精査して時間の短縮を図ったり、学校行事等の見直しを行ったりして、学校運営の改善を行う。 ④ 適正な時間での勤務が図られるよう各種行事や活動について、学年主任会や打ち合わせによる合意形成を図った上で、改善や見直しを行い、業務の効率化を図る。 ⑤ 日常の校内巡視は焦点化し、常時指導を改善していく。	
5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている」における肯定的回答 ⇒保護者80%以上	① 乗り入れ授業、教科分科会、6年生の進学先中学校訪問等を、目的を明確にして効果的に実施する。 ② 行事や児童会活動・集会活動等での交流を実施し、その様子を情報発信していく。 ・あいさつ運動 ・音楽朝会での発表 ③ 「地域学校園の日」を活用して研修や情報交換を行い、地域学校園全体での共通課題の達成を目指す。 ・宝木学校園「生活のきまり」 ・自主学習推進 ・学習のきまり	
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」における肯定的回答 ⇒教職員85%以上	① P T Aや地域協議会等と連携し、各教科・領域で充実した体験活動を推進する。 ・ふるさと教室（昔遊び・昔の暮らし） ・読み語り（陽だまりの会・下野民話の会等） ・学習会 ・農業体験（田植え、稲刈り） ・町探検、ミシンボランティア 等 ② 全学年で行政や企業と連携した出前授業を実施し、保護者にも積極的に参観を呼びかけていく。 ・工場見学（カルビー） ・人権教室 ・モノづくり教室（日産） ・上下水道局 ・薬物乱用防止 ・リコーダー教室 ・歯磨き教室 等	

6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」における肯定的回答 ⇒教職員85%以上	① 毎月、校舎内外の施設、設備等の安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 感染症予防対策、熱中症予防対策、インフルエンザ予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、授業（授業準備も含む）や業務に、デジタルを積極的に活用している。」における肯定的回答⇒教職員80%以上	① 児童がデジタル機器を活用して、情報を収集・整理・発信する能力を育成するため、デジタル機器等の積極的な活用を図る。 ② デジタル機器を利用した授業を積極的に行い、ICT支援員を活用する等をして情報を共有する研修を行い、授業力向上を図る。 ③ デジタル機器の活用に関連する図書資料や研修資料を教職員間で共有したり、機器を計画的に準備など、環境整備に努める。	
	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、時と場に応じたあいさつをしている。」の肯定的回答 ⇒児童85%以上	① 代表委員会を中心とした、あいさつ強化週間や中学校との合同あいさつ運動を活性化し、より多くの児童が積極的に運動に参加できるようにする。 ・低・中学年の自主的な参加を推進 ② 本校のあいさつ運動を学校便りや懇談会で保護者や地域の方々に周知する。 ・家庭での習慣化 ③ 地域に向けたあいさつについて、学年に応じて、学級単位で定期的な指導を継続する。	
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、きまりやマナーを守って、生活している。」の肯定的回答 ⇒児童80%以上	① 全職員の共通理解のもと、朝会・全校集会で全校児童に話をしたり、発達段階に応じて各学級で指導したりして、基本的生活習慣の定着を図る。 ・休み時間の過ごし方 ・授業の始まりの準備 ② 「よい子の一日」の周知徹底を図る。 ・廊下の歩行（教室移動時・休み時間） ・終業のあいさつと次時の準備 ・遊び方の共通理解 ・清掃中、清掃後の指導の徹底 ③ 生活目標を活用し、スモールステップで目標を達成できるようにする。 ・良かった点を各学級において帰りの会等で称賛する。 ・児童指導主任や代表委員児童が放送等で呼びかける。	

本校の 特色・課 題等	B3 教職員は、健康・体力面での適切な個別指導をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、健康・体力面での適切な個別指導をしている。」における肯定的回答 ⇒教職員90%以上	① 体力チェックや生活アンケートを実施し、個別指導に生かす。 ・外遊びの奨励と日常的な運動による体力づくり ・朝の1分間運動の実施 ・歯磨き指導 ・姿勢の改善と視力向上に関する意識づけ ② 給食・保健委員会を活用し、健康に関する児童の意識を高めていく。	
	B4 児童は、授業で習ったことを復習するなど、自主学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宿題や習ったことを復習するなど進んで家庭学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童80%以上	① 西が岡小「家庭学習のすすめ」を活用し、学年に応じた家庭学習の習慣化を図る。 ・音読と個に応じた宿題の徹底 ・発達段階や個に応じた自主学習の進め方の指導 ・家庭学習の時間・やり方・内容の提示 ・学級懇談等での保護者への啓発 ・タブレット端末の活用 ② 自主学習の例を掲示して、よい取組を児童や保護者に知らせていく。 ・昇降口前の掲示（学習チャレンジ週間） ・終わったノートの教室内掲示 ・リレー自主学習（全学年）	
	B5 縦割り班活動を積極的に行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、縦割り班活動を積極的に行い、思いやりの心を育てている。」の肯定的回答 ⇒教職員90%以上	① 異学年の交流活動を上級生がリーダーになって主体的に行い、思いやりの心を育てる。 ・たて割り班による花はなタイム ・新体力テスト ・遊友タイム ・読み聞かせ ・お弁当の日 ・清掃活動 等 ② 班対抗のゲームや活動を取り入れて、継続的に高学年がリーダーとなる場づくりを推奨する。 ・遊友タイム ・運動会 ・企画委員会との連携	
	B6 児童は、学習や仕事を通して、自己有用感を育み、自己肯定感を高めている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、学級や学年、学校の役に立つように、進んで学習や仕事に取り組み、周りから認められている。」における肯定的回答 ⇒児童85%以上	① 各教科等の学習において、一人一人に役割があるグループ活動の機会を設定し、相互に助け合いながら役立つ経験を積ませる。 ② 特別活動（児童会活動、学校行事、学級活動（係活動）等）において、友だちや異学年児童との関わりの中で、自分の役割を果たすことにより活躍する機会を設ける。	

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。